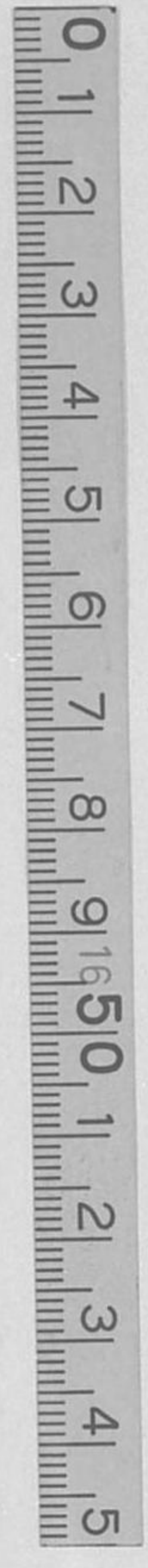


419
4
M



始



419-4



釜山港

釜山は朝鮮の南端に位し、海路百二十餘哩を隔て、遙かに下關と相對し、朝鮮縱貫鐵道の起點にして、歐亞大陸に通ずる門戸たり、市の中央に鬱然たる龍頭山と、なほ港頭半島を摩するを絶影島とす、亦崎の山嶺の如く北より突出して、風濤を遮り、港内水深くして天然良港の資質を有す、加ふるに、輓近港灣に對する人工的設備大に進捗し、殆ど遺憾なきの境に達せむとす。

明治
44.12.27
寄贈

朝鮮總督府鐵道局
贈本



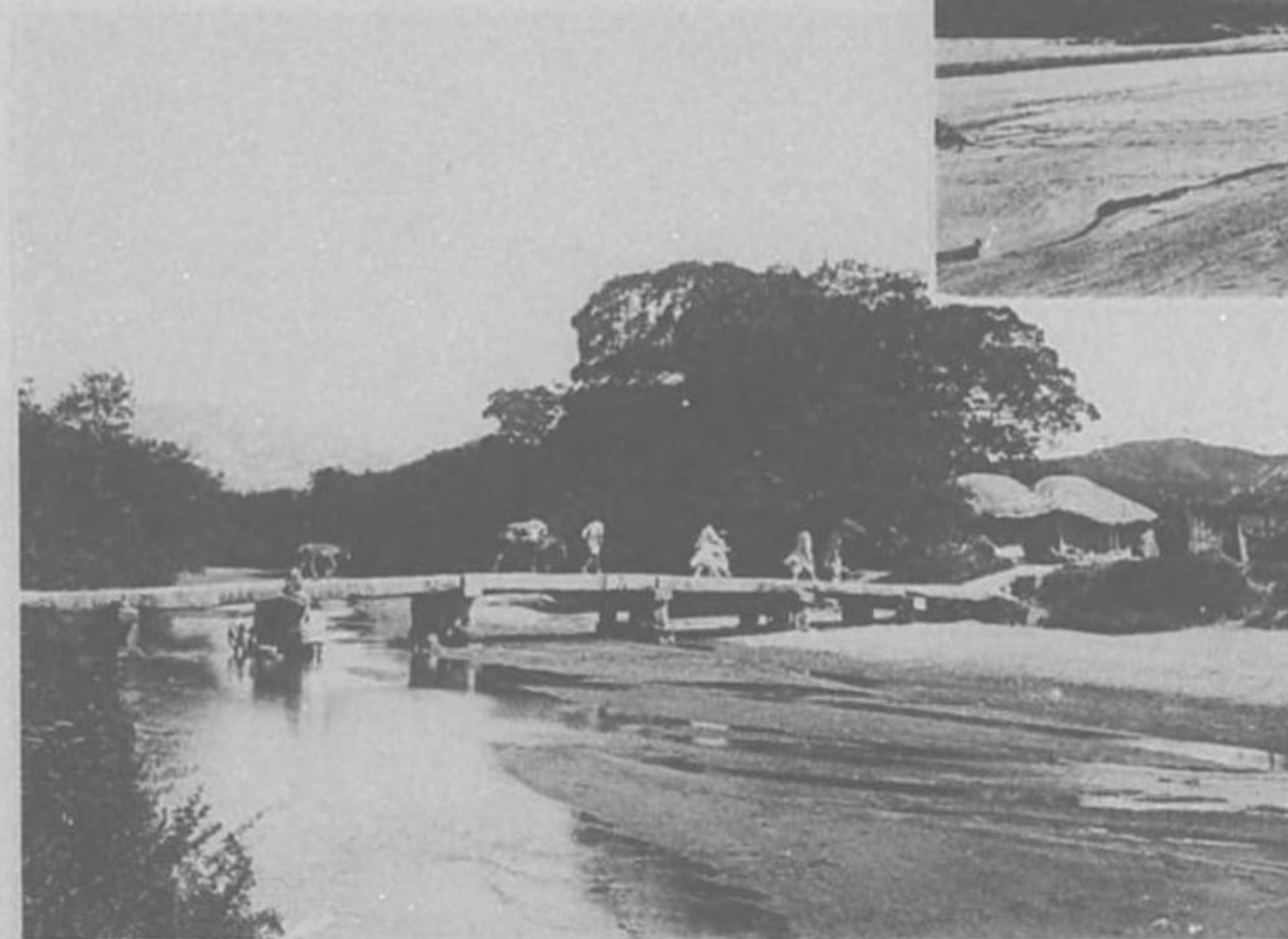
釜山停車場

明治四十一年六月起工し四十二年三月竣工す其建
坪階上階下を合せ五百六十四坪にして階上はレス
トランドに使用せむとす。

東萊温泉と洗兵橋

東萊は、元と郡衙の所在地にして洗兵橋は其南門外
數歩の地にあり、梵魚寺川に架す橋上の風景幽雅に
して橋下清流網魚に適す。

東萊温泉は上流半里の地にして磊巖たる金井山其
西方に屏立す、靈泉清澄客舎又瀟洒たり、釜山鎮驛よ
り六哩餘の輕便鐵道あり、以て浴客の來往に便す。



通度寺と梵魚寺

通度寺は梁山郡靈鷲山下にあり、新羅王子金慈藏の御開にして、唐貞觀二十年本朝大化二年舍利佛塔を安置す、由來東方佛の本宗と稱し、壯大なる殿閣を有したりしか、數年前火災に罹り、其大半を失す。

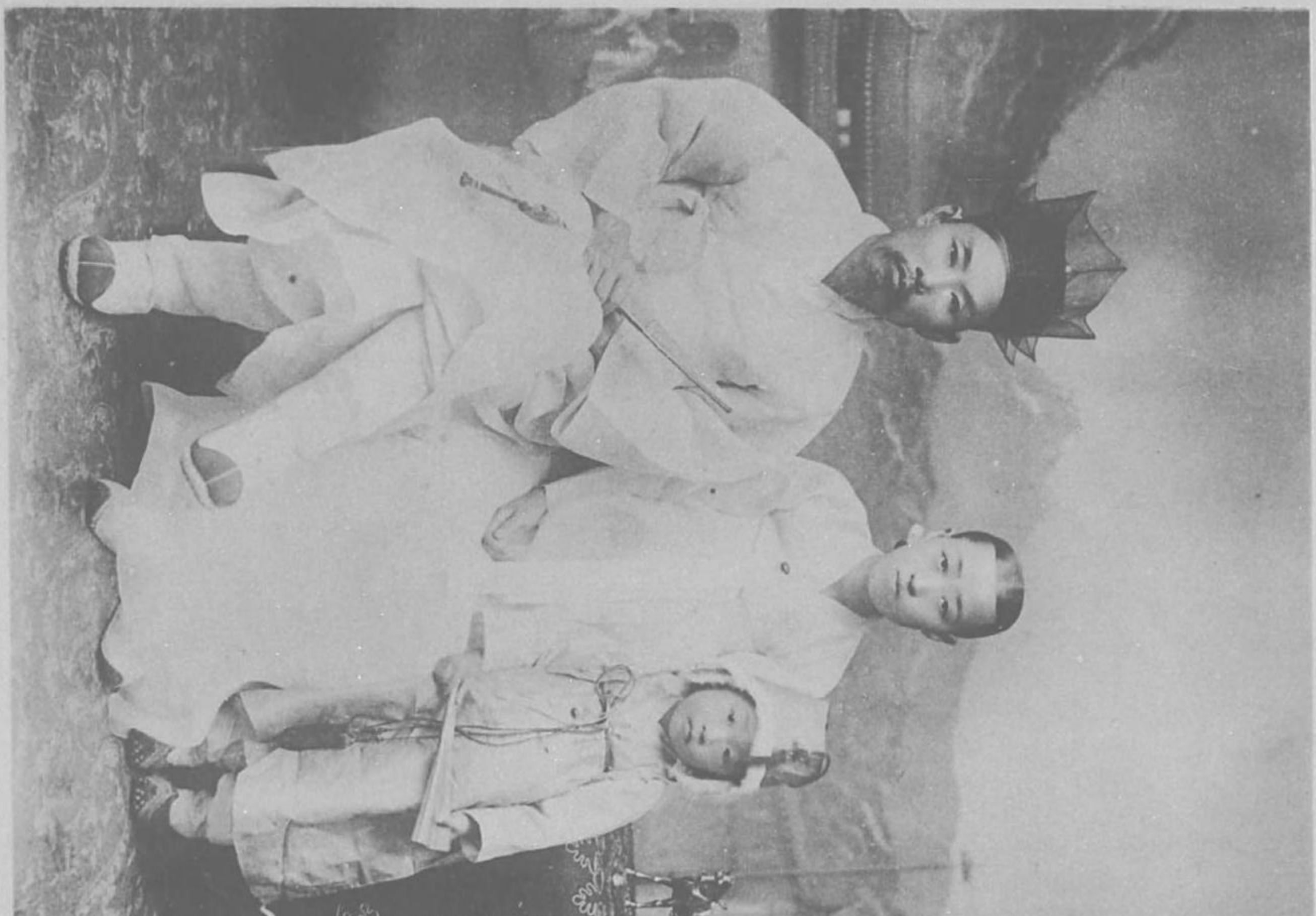
梵魚寺は東萊温泉より約二里の上流にあり、境内幽達なり、新羅の僧元曉の開基に係り、規模觀るべきもの尠からず。



朝鮮の風俗

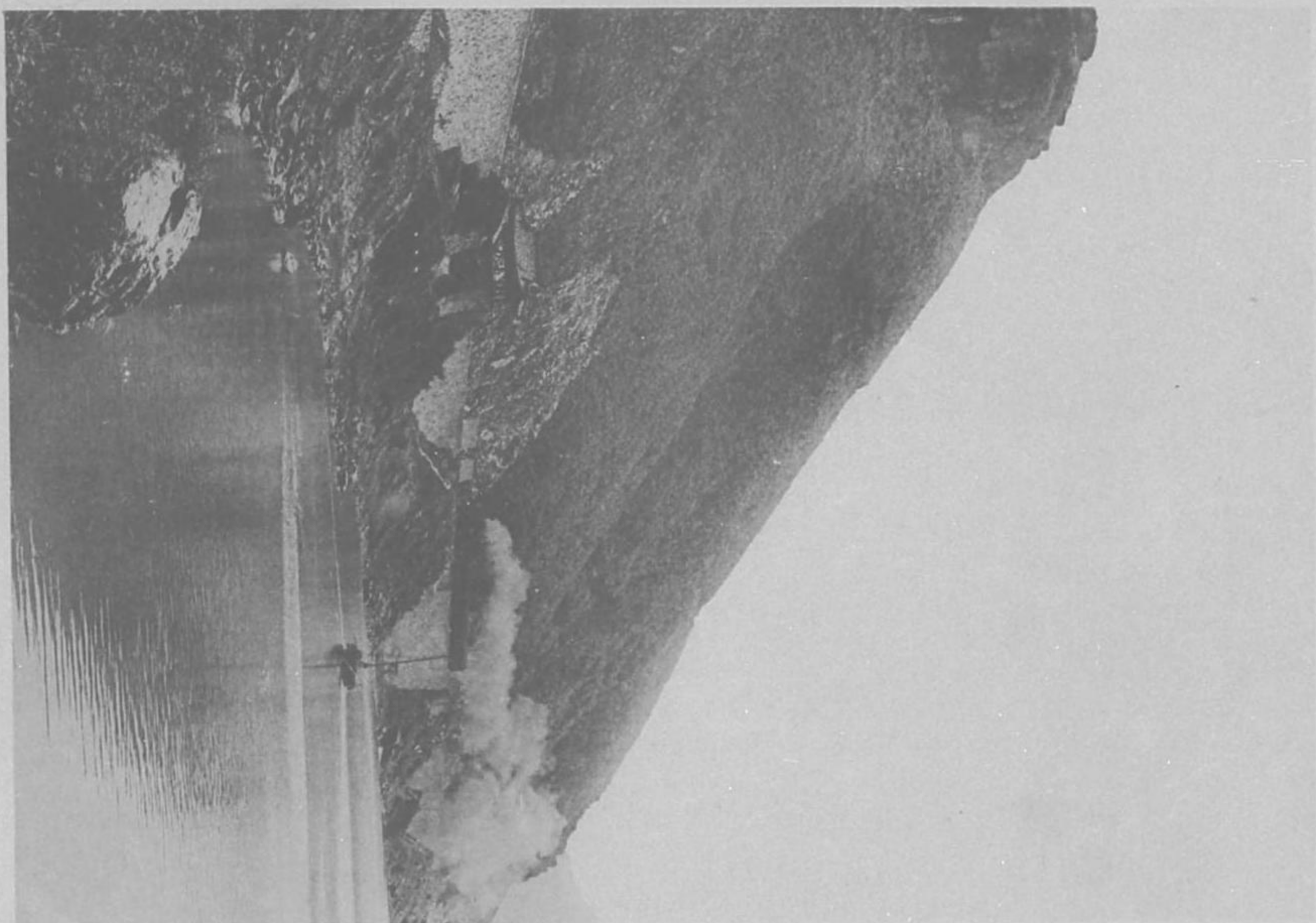
朝鮮の風俗は近年著るじき變化を呈し、漸次洋装の風日々に多きを加へつゝあり。

本圖は純粹なる中流朝鮮人の代表的映畫とも謂ふべきものにして、現在尙此風俗をなせるもの多し。



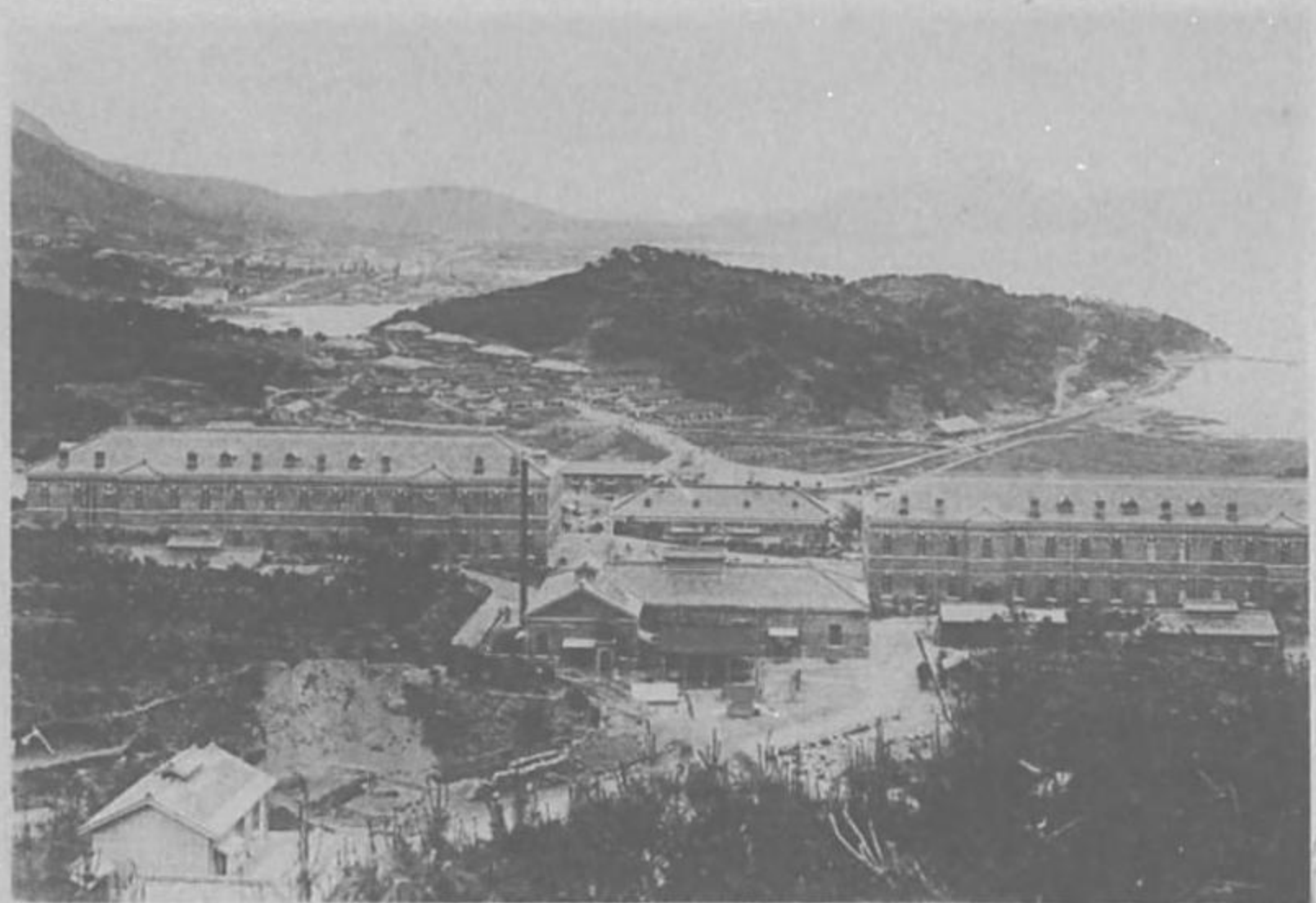
鵝院關

鵝院關は三浪津驛の東南約半里に在り鐵道線路其關頭を通過す文祿元年四月小西行長東萊以下數城を屠り進て此處に至るや密陽の府使朴晉等關を扼す我軍關後の險を攀ち山上より鯨波を作つて突撃す朴晉等身を以て免かれ蒼惶密陽城に入る線路は此附近に於て最も洛東江岸に接近し車窓の眺望極めて佳なり。



馬山と海水浴

馬山は去る三十五年に開港せられ爾來新設備を加へて現時の盛況を呈するに至れり舊馬山は往昔の合浦にして城敵の末に鯉戸茅合相密集す弘安の役、蒙古軍はこゝに根據を置き我西海の濱に襲來せり、四十四年一月開港場を閉ち軍港の一部となる。





密陽嶺南樓

密陽江は清溪香魚を産す、南鮮名物の一たり、密陽の城東山を負ひ、江に臨むを嶺南樓とす、樓上遠く平野を望み、龍頭終南の諸峯、左右に屏立す、山川歴々宛として畫圖の如く、密陽江鐵道橋は數町の上流を横斷す。

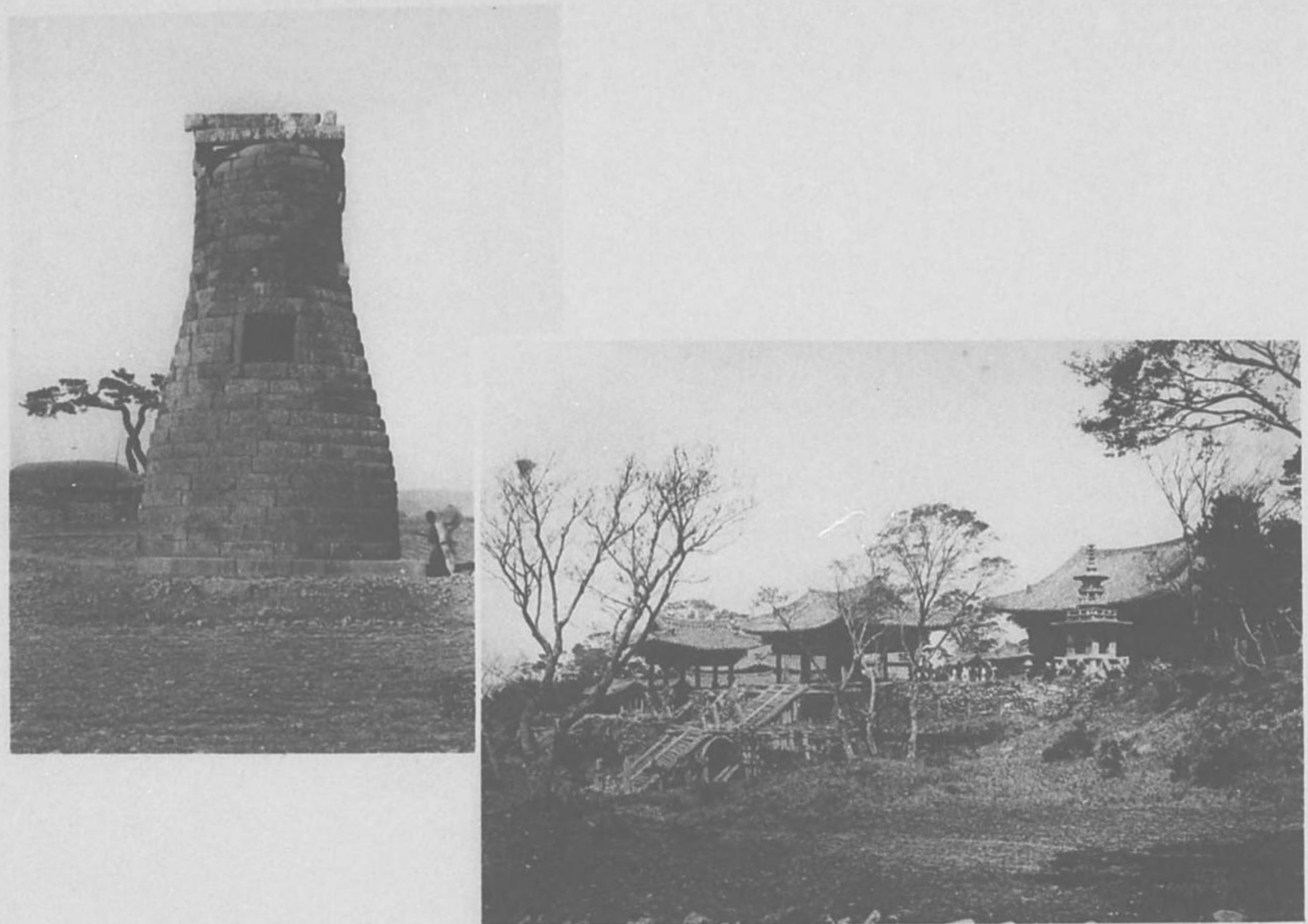
大邱市場

大邱は朝鮮南部に於ける大都會にして全羅慶尙忠
清江原諸道の重要市邑と密接なる商業關係を有す、
東門及西門外の二箇所に市場あり、毎月前者は二七
後者は四九の日に開市す、殊に同所の藥市は、毎年春
秋の二季二箇月に互り連日の開市をなし、八道の商
估廣集して盛況を呈す。



慶州佛國寺と瞻星臺

慶州は、上代文化の淵源たりし新羅の舊都にして、荒廢甚しきも、尙當時を回顧するの料となるもの尠からず。佛國寺の石造多寶塔及燈籠は、其工藝の精緻を観るべく、月城山畔の瞻星臺は、現代に残存する、東洋最古の天文臺にして、其文化を察するの好材料たるへし。





公州山城拱北樓より錦江を望む
公州は忠清南道道廳の所在地にして百濟舊都の蹟
なり又双樹山城と稱す錦江の流に枕み山水明媚の
境なり。

温陽温泉

温陽温泉は京釜線天安驛を距る三里餘馬車、人車等の便あり李朝世祖曾て俗離山に行遊の歸途駕を此地に枉け近くは又攝政大院君浴場を重修し時々行樂を試みたるの地なり湯元温陽館は本朝風の新建築にして設備待遇共に整頓せり尙他に三四内地人の經營する旅館あり。





朝鮮の鋤犁

朝鮮の鋤犁は製作極めて粗雑なれども之を用ふるに二頭の牛又は馬を使役するものにして内地の一端なるに比し、一步を進めたるものと謂ふべきなり。



水原と華虹門

水原は八達の翠巒に據り城廓を構へ華城竹宮華寧殿青蓮庵等遊覽に値ひするもの多し李朝正宗會て其風色に憧憬し遷都を議するに至る華山は前後四十年間を費し王室の事業として造林したるもの、周圍四里抱拱の樹全山を蔽ふ。

華虹門は城の東北隅に在り建築美と風景美とは城中第一たり附近は此門樓あるか爲め風光更に一段の明媚を感ず。

水原勸業模範場と祝萬堤

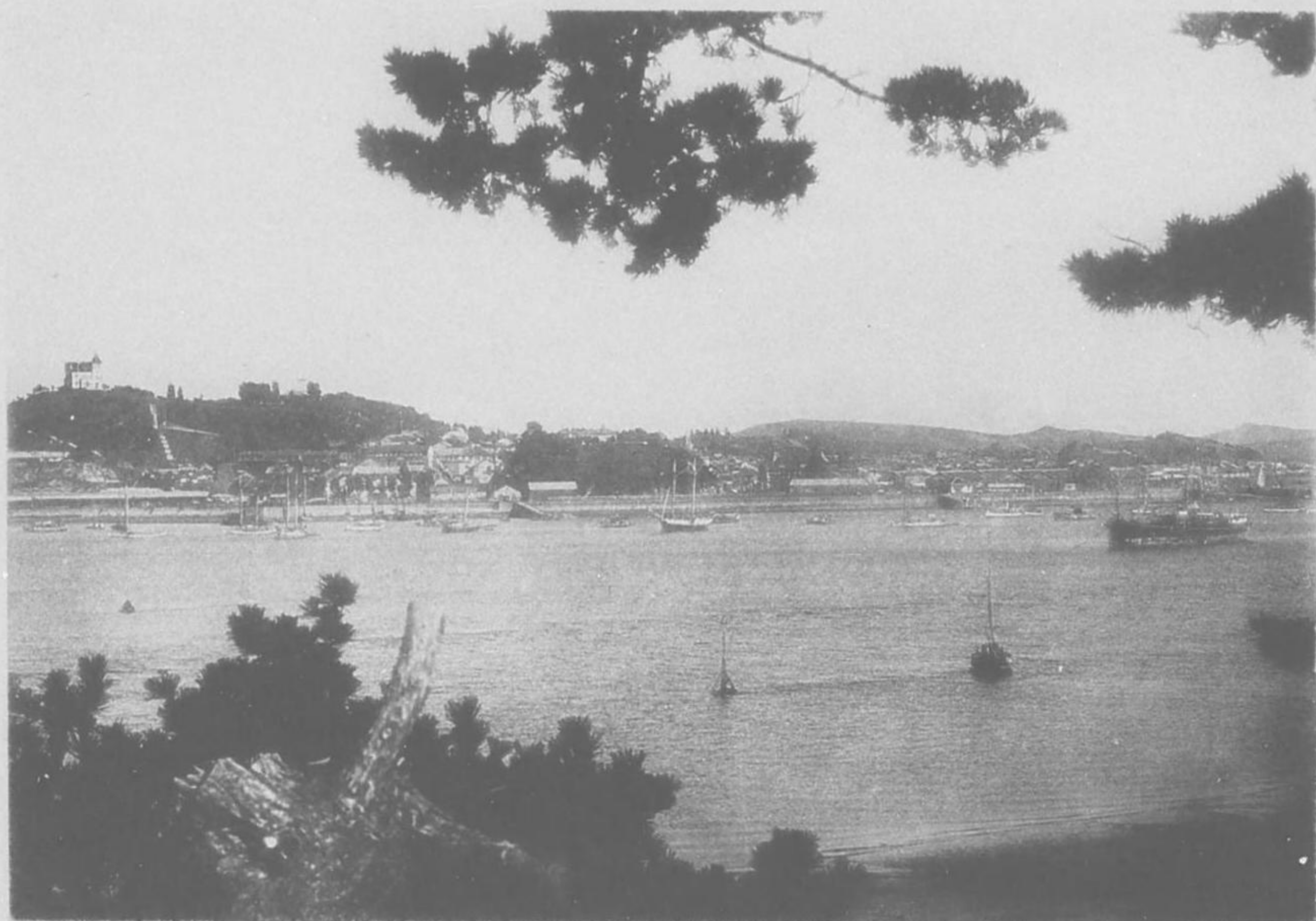
祝萬堤雅名を西湖と云ふ、正宗朝の築造に係る、當時は灌漑用貯溜池の設備、八道到る處に普及せられしが、後代政治荒廢の結果、百事懈怠して、這般の良規模も敗滅に歸し、現に残存するものに至ては、眞に寥寥たり、今や政治更新自から復活の機運に向ひ、有名な全羅碧骨堤の如き、軌近修築を加へ、原形以上優良のものに復す、此間に在りて、祝萬堤は、獨り舊制の儘現存す、眞に珍とすべきに足らずや。

水原勸業模範場は、去る三十九年の創始にして、枯渴せる半島の産業界に、新たなる規範を示し、以て斯道の啓發と、興隆とに、力を致し、尙各要地に支場を置き、首尾活躍奏功の一日も、速ならむことを期するに似たり、場内に農林學校あり、朝鮮人の子弟を教育す。



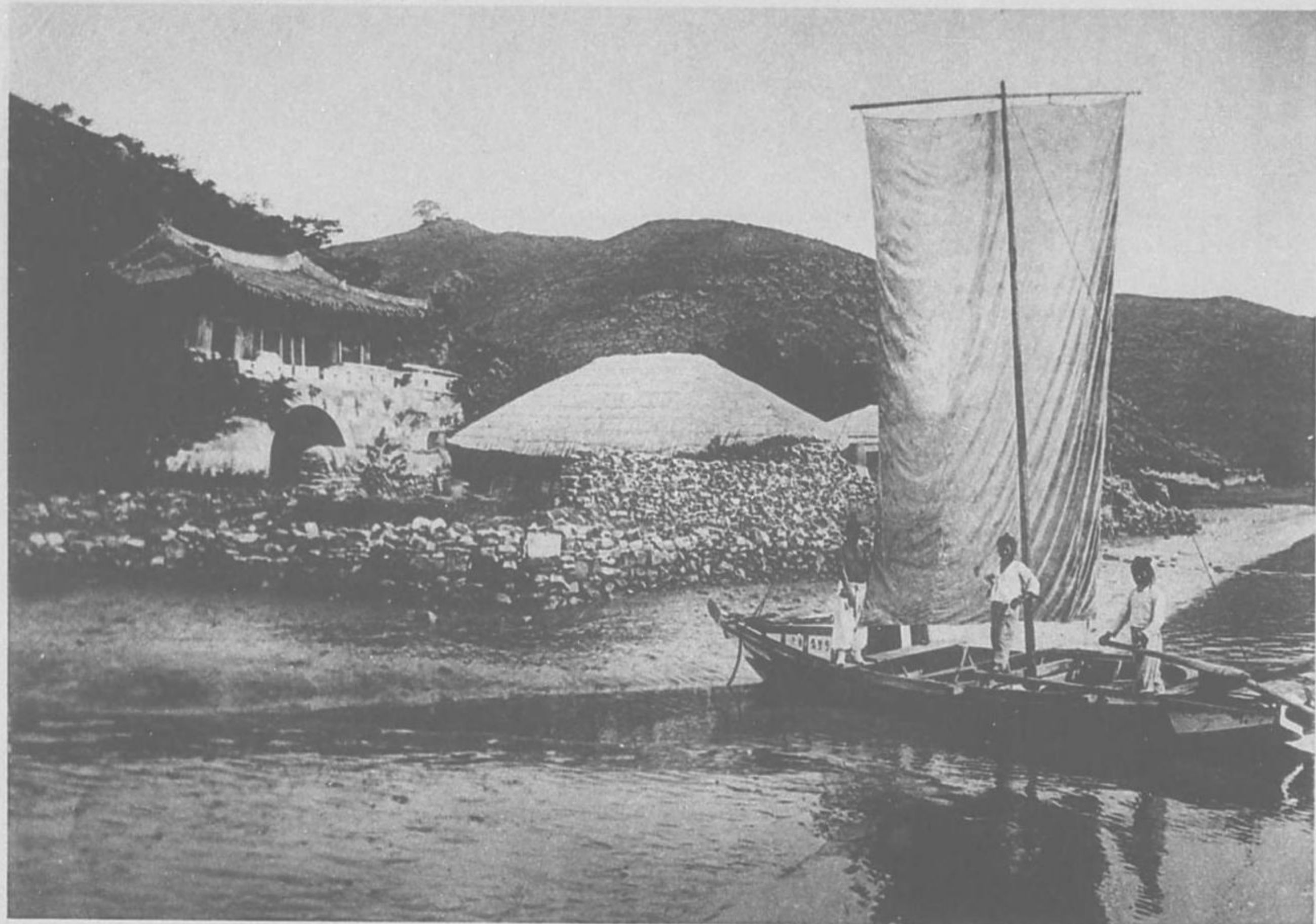
仁川港

漢江の一派南流して黃海に注ぐところ、一島嶼あり、
月尾島と名す、島畔の一澳は仁川の内港にして、島外
は、即ち外港なり、明治十五年の亂に當り、花房公使一
行の難を避けて、英艦飛魚號に投じたるは、此島外に
して三十七年二月露艦コレーツ、ソリヤーク、二隻の
撃沈せるも、亦この外港とす、今や築港の議成り、既に
工役を肇めたれば、比年ならずして同港の面目更に
一新するや、疑を容れず。



江華島

江華島は漢江の河口に横はり、周廻三十餘里に及ぶ島中の最高峯を摩尼山といふ檀君祭天の遺跡あり、高麗の高宗離宮を山南に設けて居り、政機を此處に視しこと殆ど二十年、近世に至り、艦砲撃事件を初め、米艦事件、我雲揚艦砲撃事件等、半島の近代史に特筆せらるべき多くの外交關係を生じ、又有名なる日韓修交條約の如きも、實に、此島中に議せられしなり、海岸は斷崖絶壁、舊砲臺の跡尙存し、當年を語るに似たり。





京城南大門外全景

南大門は本朝太祖の五年本朝應永三年室町時代の
建造に係り京城四大門の一なり樓上高く崇禮門の
扁額を掲ぐ門外は即ち南大門停車場にして半島首
府の咽喉に衝り車馬の來往繼るか如く頗る熱鬧繁
華の區たり。



總督府

總督府は、南山の翠嶺に據り、京城の全市を瞰下し、頗る形勝の地を占む。文祿の役、増田長盛駐陣の跡たるを以て、倭將臺の稱あり。



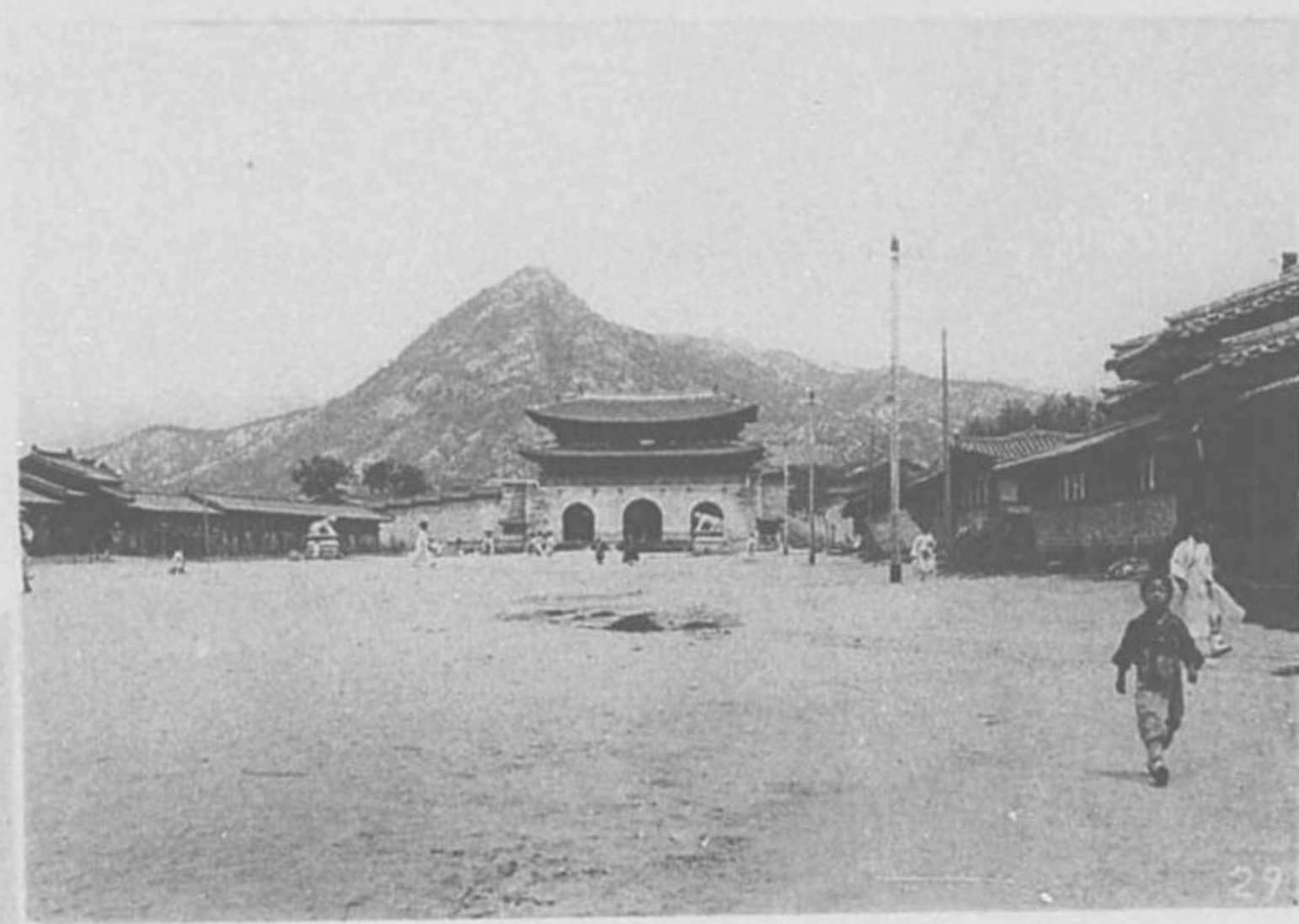
昌徳宮

昌徳宮は京城の東北隅鷹峯の南麓に在り殿堂樓閣
園園林泉備はらざるなく殊に秘苑は丘陵逶迤とし
て老樹鬱茂し幽邃の境殆ど人寰にあらざるを疑は
しむ李朝太祖の創建に係り火災後慶長十四年再建
せるものなり現今李王殿下の居宮とす。

景福宮と慶會樓

景福宮は白岳の南麓に位置し、京城市は恰も之を中心として企劃せられたるか如し、右圖は正面光化門の光景にして、門前大路縦横に馳せ宮觀頗る堂々たり、初の太祖李成桂新宮を建て之に居り、降て文祿の役我征明軍の入城に先ち煖失し爾來三百年斷礎累々たりしを慶應の三年大院宮攝政の威に據り一代の民力を竭くして再建したるものなり。

慶會樓は景福宮の苑内に在り、周らすに蓮池を以てし樓上の眺望絶勝なり。





蠟石の塔

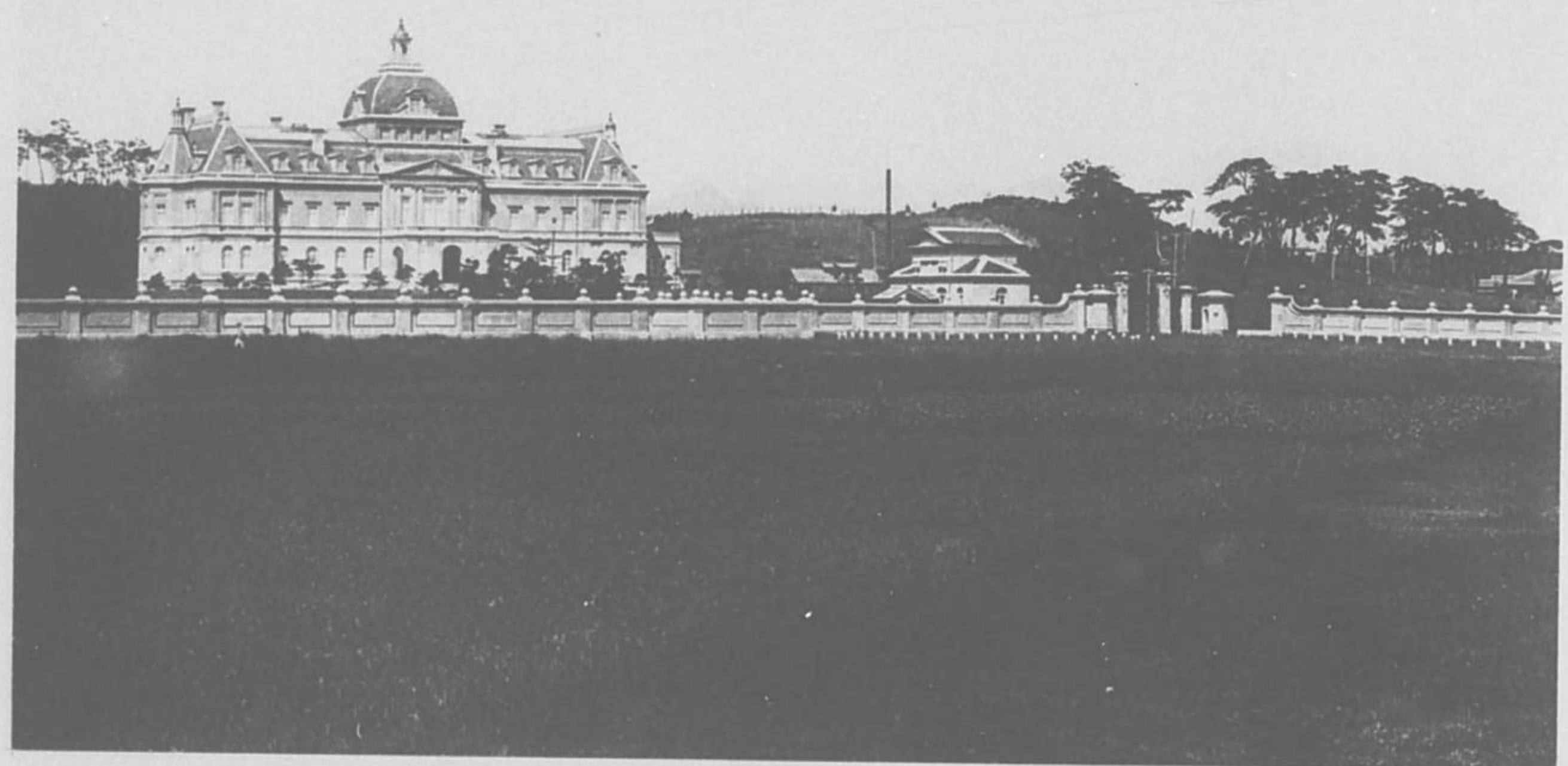
塔は京城鐘路の東三町餘、ボッタ公園内に在り、十三層塔にして李朝世祖の十二年、本朝應仁元年、足利義政時代の建造なり、形體の整彫刻の巧半島の石造物中之に勝るものを見ず。

龍山新市街と軍司令部

龍山の新市街は京城市と連続し漢江に枕み鐵路は此地を中心とし京釜、京義、京元の各線に分岐し京城の門戸をなす。

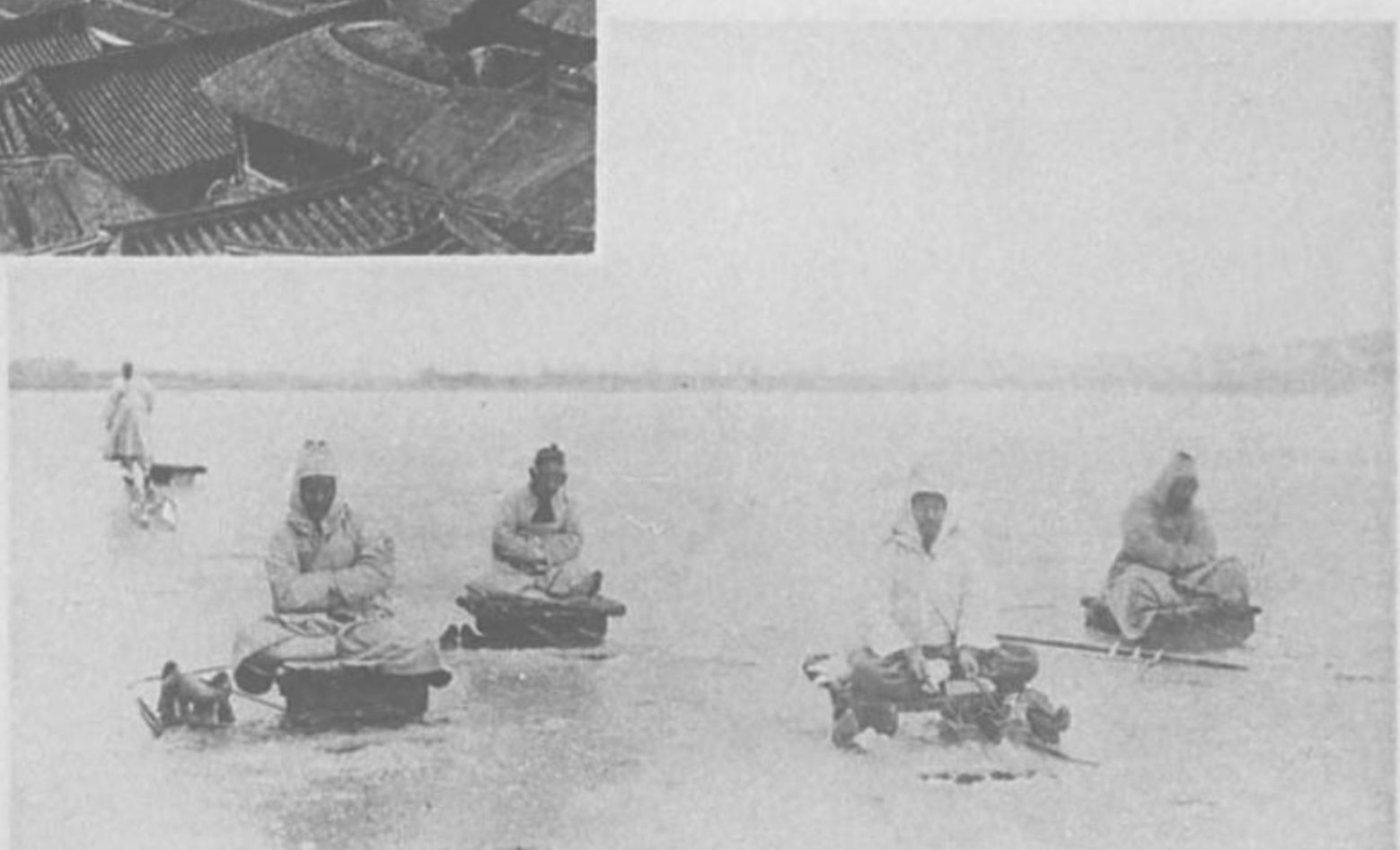
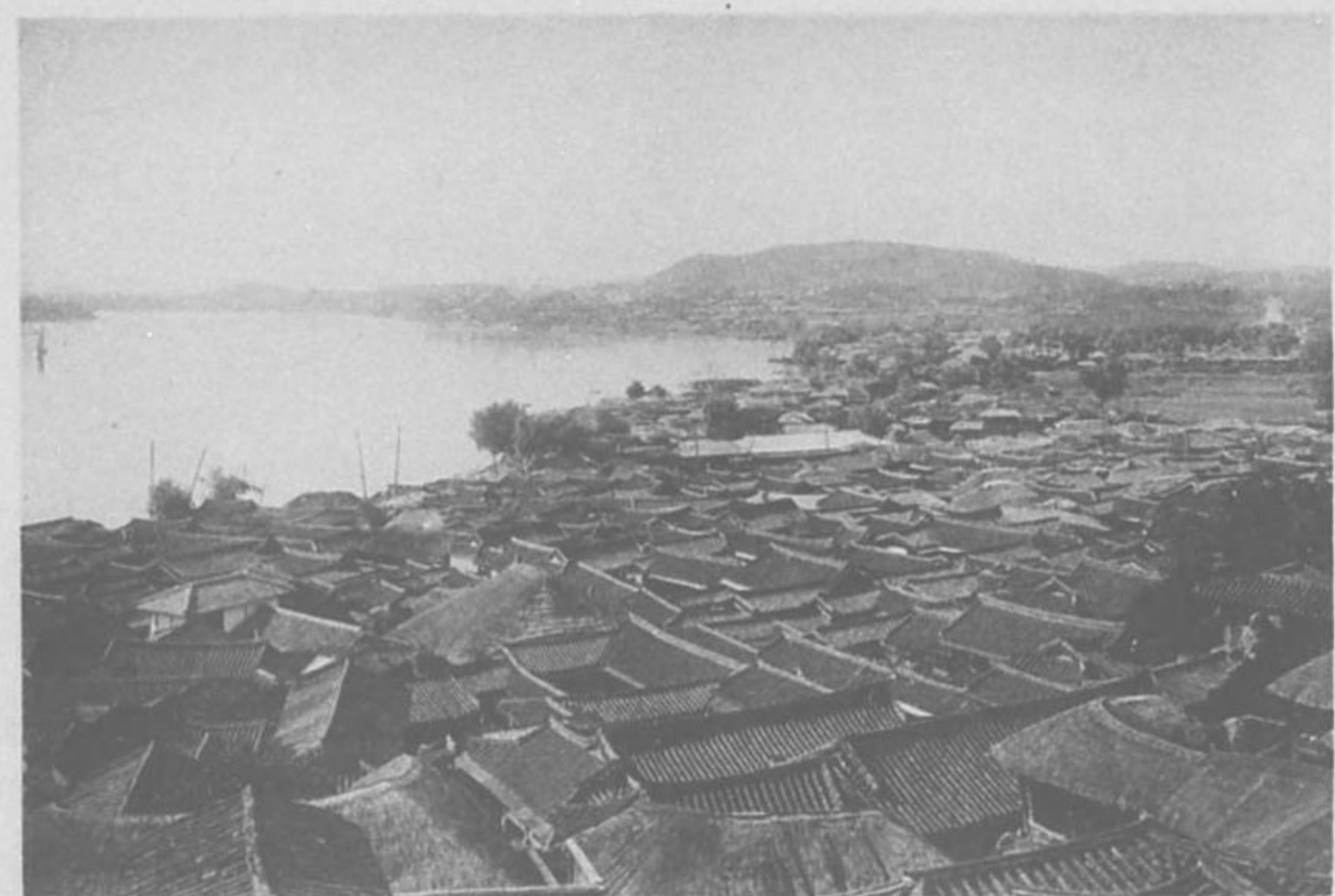
東方に當り松林を背景とし一箇宏壯の建築を看るは駐劄軍司令部なり。





總督官邸

邸は龍山の東阜に據り、漢江の長流に臨み風景の得易からさるゝ共に建築又壯大美麗を極む。



麻浦全景

麻浦は龍山と相竝ひて、漢江江畔に臨める、商業般盛
の區たり、京城を距る一里、電車の便あり、江を隔て、
栗島の碧樹清沙に對す。

臨津江と碧蹄館

臨津江は源を咸鏡の南部に發し、長流七十里、漢江と共同河口をなし、黃海に入る。半島中の最優品たる、長湍大豆は實に、本流域の特産物にして、産額又甚た大なり。架橋一千七百八十六呎、明治四十二年十二月竣成。

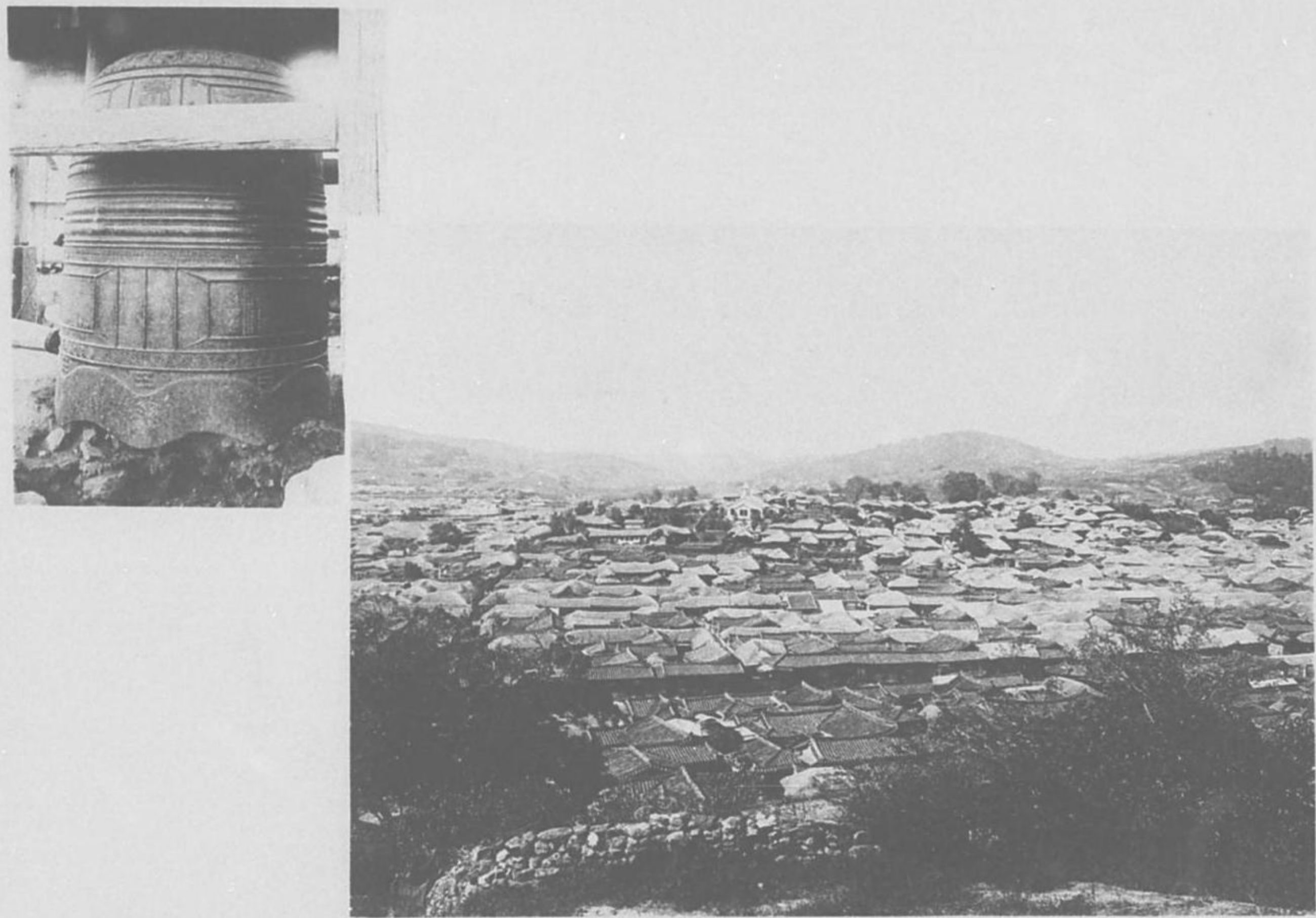
碧蹄館は京城西大門外四里、高陽に在り、本江江岸を距る二里、文祿二年正月、明の李如松十萬の軍を提して、我退路を追躡す。小早川隆景、立花宗茂等之を碧蹄館に邀撃し、大に之を破り、明の全軍をして、喪心寒膽、殆ど復立つこと能はざらしめしところ、館上猶掛甲樹等を遺す。



開城と演福寺の古鐘

開城は高麗の古都舊蹟に富む戸數八千餘又沿線の
大市たるを失はず。

開城南大門樓上の古鐘は高麗忠穆王二年本朝正平
元年の鑄造に係り元朝の様式を示せる手法精美の
ものにして今日支那に於ても之れと比肩すへきも
のを發見せずと云ふ當年の遺物として蓋し貴重の
物たり。



高麗王陵

開城附近の丘陵或は島地より、金銀銅製の器具並に磁器等を發掘するは皆是れ高麗の習風として墳墓に埋藏せられたるもの、現代に發見せらるるものにして、五百年の星霜は墳墓の大部分を雨蝕風侵と去り殆ど其形跡を留めざるに至る、獨り高麗王陵の重なるものは、李朝歴代の保護に因り、現存す本陵は其一なりとす。





蔘圃

高麗人蔘に對する清國人の信仰は殆ど他の想像も及ばざる程なり人蔘は朝鮮各地に産するも其優良にして價貴きものは獨り開城附近に産するもののみ培養製造共に複雑鄭重にして事業容易ならず今は專賣局を設置せられ保護奨勵至らざるなし。



朴淵瀑布

朴淵は開城の東北四里大興山城に在り、山城は聖居
天磨二峯の間に在る古城寨にして、塞裏を流ると、
谷幾條の水相合して、朴淵となり、更に落下して、百餘
尺の飛瀑となる、鞞磴として、山嶽爲めに震ふ。

黄州城と土橋

黄州は載寧の平野に連なり、西朝鮮の有望なる農業地として、囑目せらる。碧花山麓に據り、城廓を構へ、草川南を流れて、觀望又佳なり。

土橋は草川に架せるもの、構造粗雑にして、田家茅屋との、好對照を見る。



玄武門と乙密臺

平壤玄武門の名は、兒童走卒も猶能く記するところ、牡丹、乙密兩臺の鞍部に在り、歴訪の客誰か當年勇士の奮闘を想起せざらむや、乙密臺は清將左寶貴の死守したる蹟址、柱楹彈痕を留めざるに當年兩軍奮戦の狀を偲はしむ。



大同江と浮碧樓

大同江は、黃海排水系の主要なる巨流にして、全長八十餘里、平安南道は普ねく其本支流によりて灌漑せらる。斯の如き大江なるを以て、朝鮮の發達に資せること、渺からず、平壤は、半島に於て最も早く都を定められたる地にして、古今歴史上著明なる事蹟を殘せ

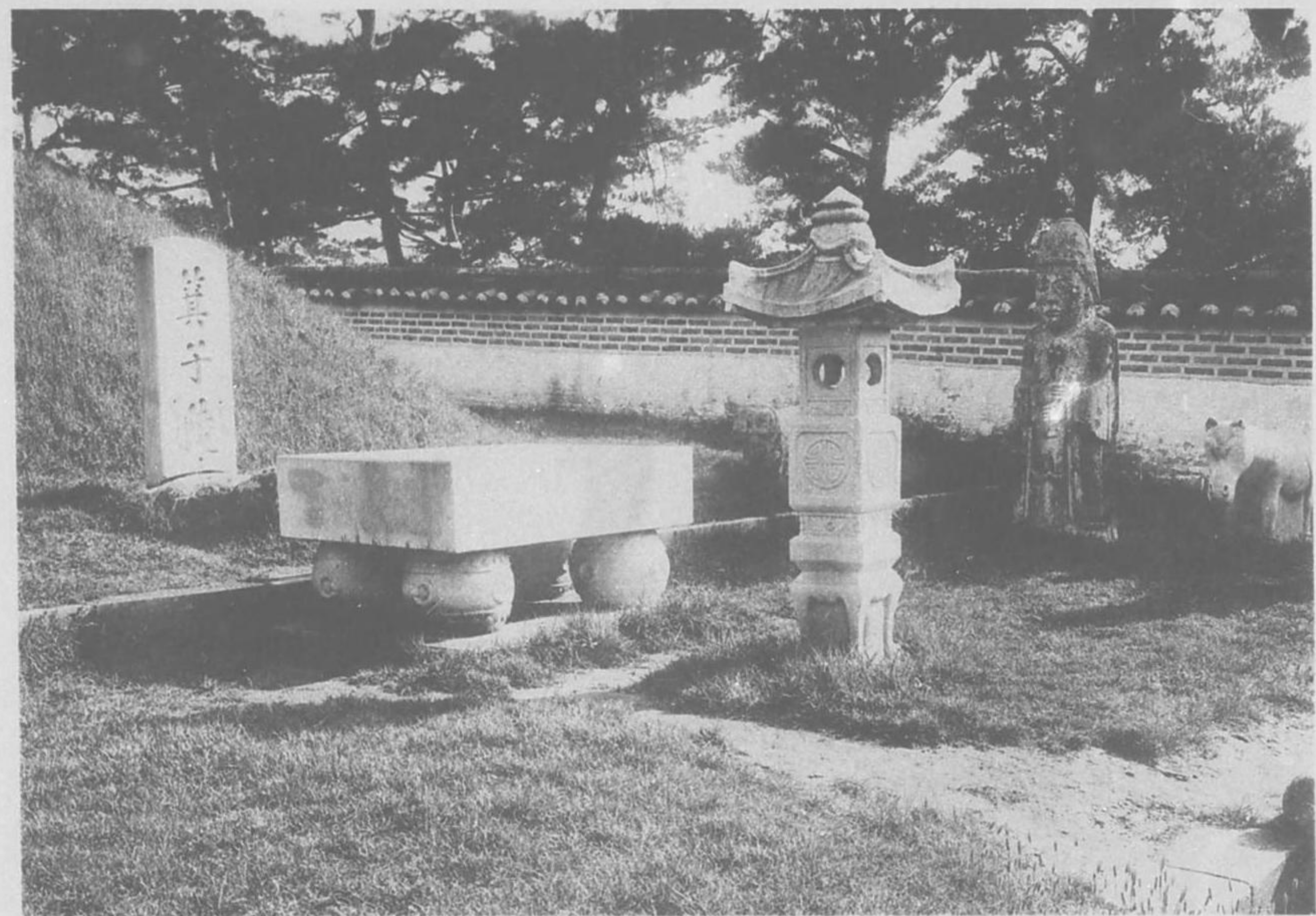
h。

浮碧樓は平壤城外にあり、牡丹臺畔の窪地に據り懸崖に臨む。直下には、楊柳煙むる綾羅島を抱て流る。あり、永明の古刹、又其樓傍にあり、古來平壤の風光を説くもの、此地を以て其第一に置く。



箕子陵

平壤東北の鎖鑰たる七星門外に續く鬱蒼たる松林は箕子陵の在る所にして高麗肅宗の十年に創設せられ李朝成宗の十二年碑を建て文を刻せしものに係る地境極めて幽邃なり。





朝鮮風俗紡績と機織

朝鮮の工業は地を拂つて殆ど見るべきものなし織物の如き僅かに綿布麻布純絹壁絹の數種を數ふるに過ぎず然かもこれ上代に漢織女吳織女を貢し織物の技を傳へたる本朝機業界始祖の郷なり。

鎮南浦

鎮南浦は去る三十年十月本浦と同時に開港せらる
總戸數三千五百餘人口一萬二千餘大連芝罘等と僅
かに一葦水を隔つるのみ穀類の集合地として半島
第一に居る瀋陽島の西側は目下開門式築港工事中
の位置なり。



廣梁灣と寺洞

朝鮮の産業由來振はさるや久し政府は曩きに大同江の下流に於て製鹽に適當なる廣梁灣の一大干潟を利用し大規模の鹽田を計畫したり成工後の製鹽年額一億二千萬斤に達すへしと云ふ。

寺洞は大同江南の岸に在り平壤礦業所所屬煉炭製造所其他之に伴ふ工場の在る所にして附近一帶に無煙炭礦蘊布し到る所に露頭を見る炭質良好煉炭材料として盛に採掘せらる。

以上二者共に華島産業界の偉彩たらすんはあらず。



安州城と清川江

安州は往昔高勾麗の兵階の大軍を邀撃し大捷を博したる古蹟にして峻嶺に據り大江に臨み城堞を構へ殊に其百祥樓は景勝を以て喧傳す鐵道橋は下流二里にして清川江を横斷す延長二千五百八十三呎に達す。



天地大將軍

朝鮮の俗疾病災難凡そ不可抗力のもの總へて鬼神の祟る所となす之を驅逐する呪として奇異なる形相を刻したる標木を村落の入口等に建つるの習風あり天下大將軍地下大將軍逐鬼大將軍等必しも一定したることなきか如し。





白馬山城

白馬驛の北東に聳ふるを白馬山とす山城は其山腹に據る鴨綠江を隔てて滿洲の諸山に對す李朝仁祖即位の初め明の舊誼に報して屢清と邊境に争ふ謀臣林慶業時に義州に知府たり彼れ能く兵を練り武を講し清をして力を征明に専らにすること能はさらしむ白馬東林等の諸城當時慶業の築造せしものに係る。

新義州と統軍亭

京義線の終端驛新義州は去る三十七年鴨綠江架橋地點を爰に撰定せられたる以來の、創開にして、現今戸數七百人口四千餘を有す、政府は此地に營林廠を置き、江上より伐採流下する木材の製材竝に專賣の事業を經營す。

統軍亭は義州府の北東を擁する丘陵の上に建つ亭上の展望甚だ濶大鴨綠江其崖下を流れ、江を隔て、虎山、九連城、沙河鎮等と相對す、日清日露の役共に我砲兵陣地たり。



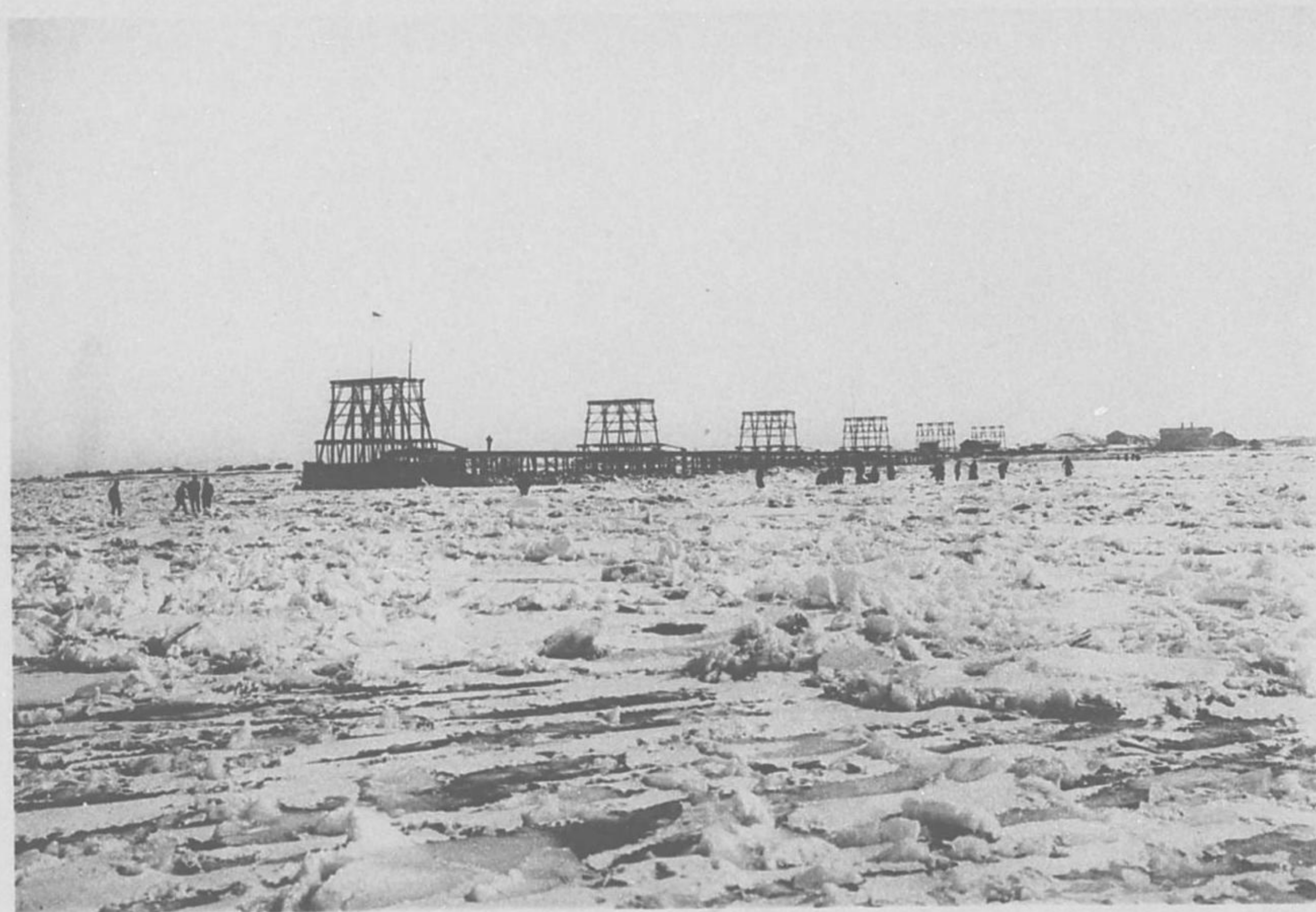


龍岩浦

龍岩浦は鴨綠江口にあり、新義州を距る下流五里港内の平水僅かに五尺に充たさるも、干満の差普通十尺を下らず、故に深吃水の船舶は常に満潮を利用して出入す、戸數二百五十、人口一千餘。

鴨綠江結氷と架橋工事

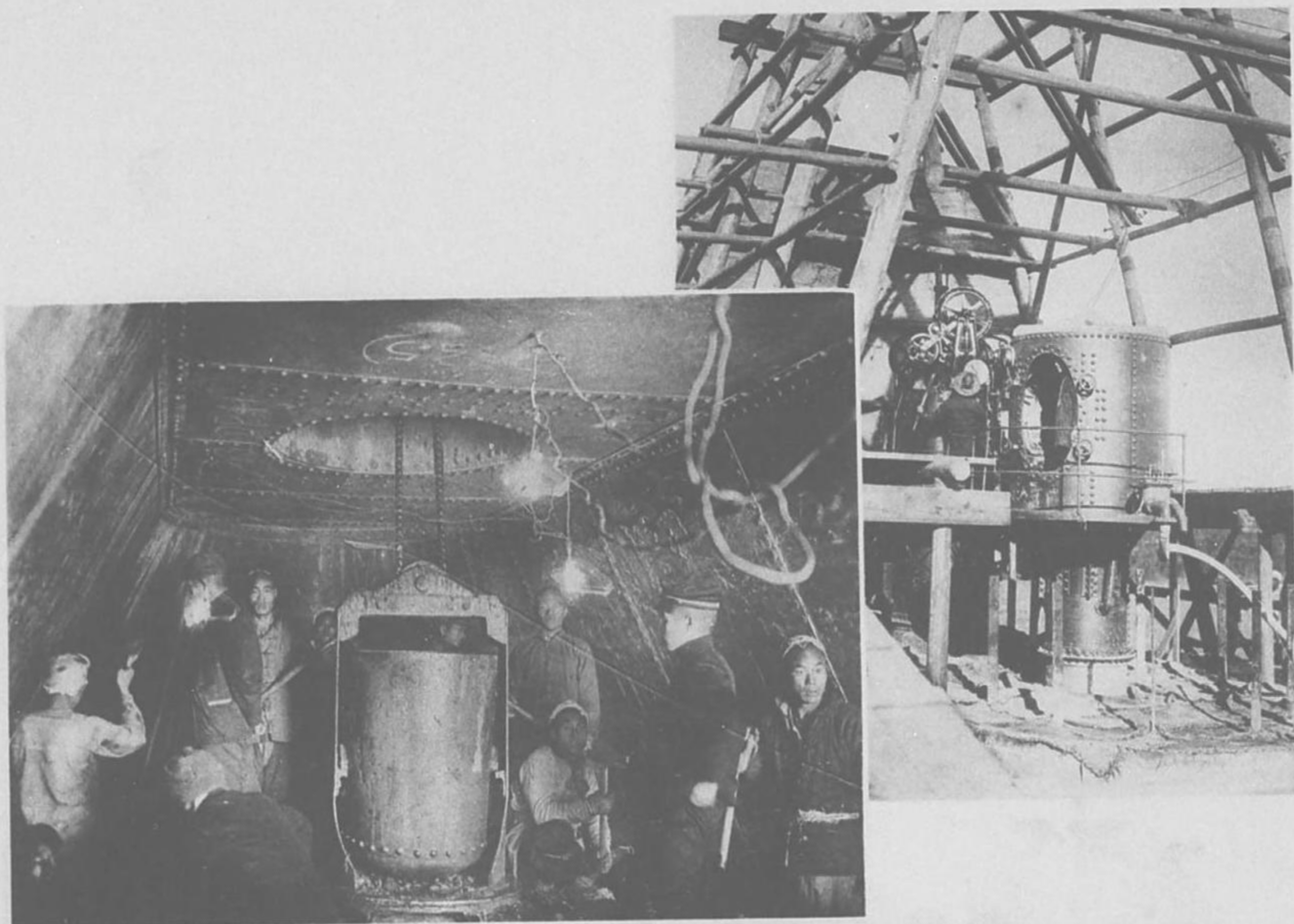
鴨綠江は結氷の初期約一箇月間、解氷期には流水盛にして危険甚しく、對岸との交通全く杜絶することあり、結氷後の江面は、氷塊累々として壯觀を呈し、氣温は漸次降下して、華氏零下二十五度に至る。本圖は結氷の爲め、工事を中止したる光景にして、風物轉慘憺たるものあり、鴨綠江の架橋は、東洋に於て從來類例稀れなる、開閉橋たるを以て、異彩とす、而して其工事は激烈なる、天然の障害、寒氣潮流、洪水等の外、頻繁なる船舶の來往長大なる、木材筏の流下、等人の爲の障害も亦加はり、當局者を悩ましたること多し、橋脚基礎工事には、潜水函を使用し、以て江底の作業を比較的容易ならしめたり。

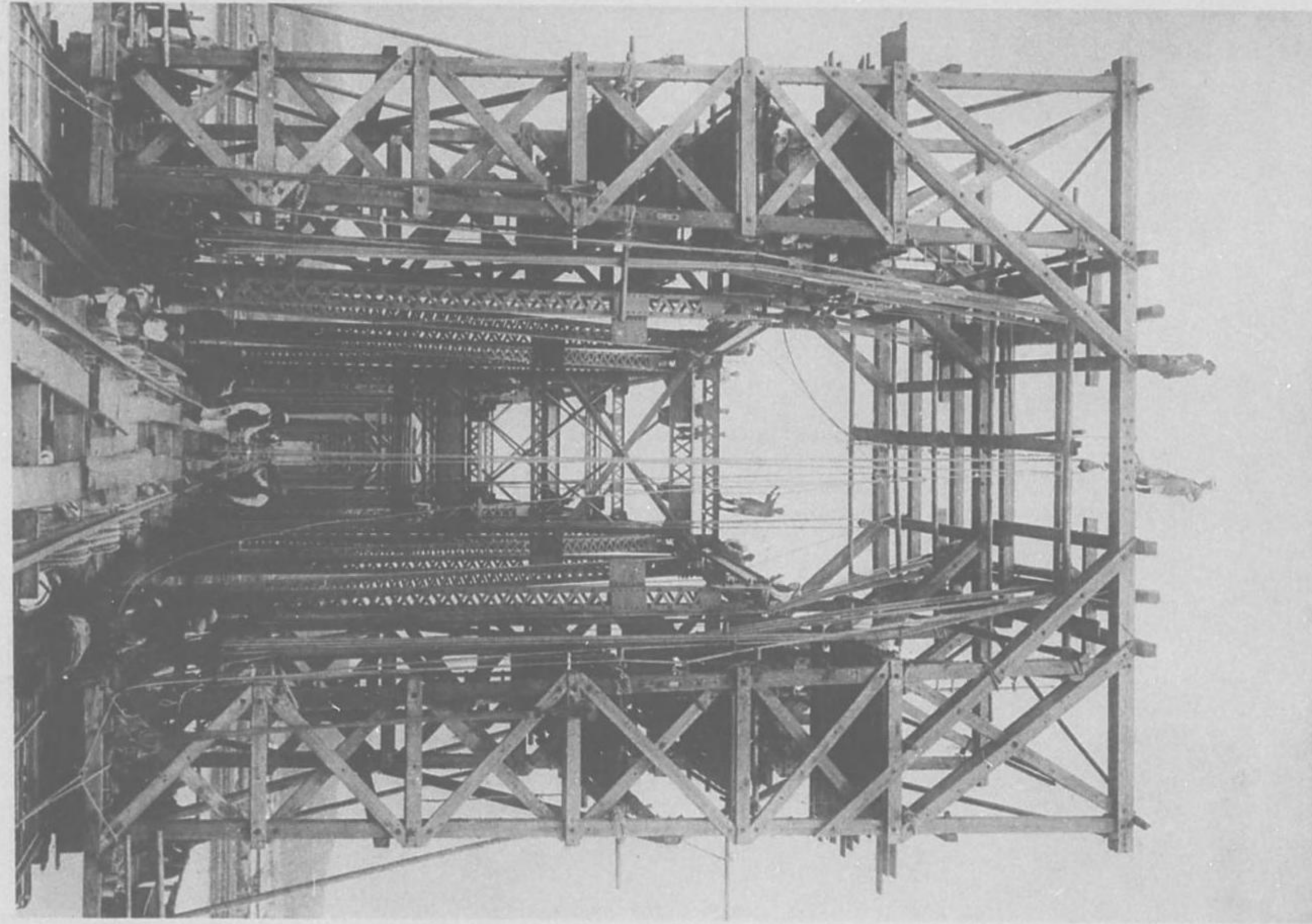


鴨綠江橋梁潜水函沈下工事

潜水函内と水面上との交通は、二基の圓塔に依るものにして、其の一は労働者の昇降に用ひ、他は工事材料竝に掘鑿土砂の揚卸に専用するものなり、今や壓搾空氣は護謨管を通して塔内に填充せられむとす。

左圖は、水面下四十呎の江底に於ける潜水函内作業の光景にして、函内高八呎、函底長三十九呎、幅十七呎の楕圓錐狀を成す掘鑿したる土砂は鐵桶に依り將に引上げられむとするなり。





鳴緑江橋梁鐵桁組立の光景

架桁工事は移動足場を用ひて順次鐵桁の組立をな
し今や常に開閉式鐵桁に及び専ら作業に従事しつ
つあるの光景なり。

鳴緑江鐵道橋

一、施工期間

二箇年三箇月

内十箇月は結氷及洪水の爲め休止

一、全長

三千九十八呎

一、開閉式橋桁

三百十呎

一、橋桁

三百呎

五連

一、同

二百呎

六連

一、兩側人道

幅各八呎

一、桁下普通満潮面上

二十五呎

一、桁下普通干潮面上

三十七呎



終